【るもい農業情報広場】　令和4年６月１日　**R4－６月号**

今月の技術対策（畑作編）

留萌農業改良普及センター
TEL：0164-62-1779　FAX：62-2474
E-mail:rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

QRｺｰﾄﾞを読み取ってアクセス!!!

水稲･園芸編もHPで公開中！

【秋まき小麦】

1　倒伏防止

止葉期(5月末頃)の茎数が1,000本/㎡以上ある場合には、植物成長調整剤(カルタイムフロアブル等)の使用を検討して下さい。使用にあたっては、使用時期・使用量・使用上の注意点を十分確認して、薬剤散布を実施しましょう。

2　赤かび病を中心とした防除

(1) 適期防除

赤かび病は開花期に最も感染しやすくなります。穂全体に農薬が付着しなければ効果が低いため、開花状況を確認して、開花始(開花した穂がほ場に一つでも確認)に１回目、その７日後に２回目の防除を行いましょう。

(2) 防除薬剤

開花始の防除は赤さび病とうどんこ病の防除を兼ねますので、必ず赤かび病、赤さび病、うどんこ病の３病害に効果のある農薬を選択・散布してください。

～農薬使用時にはラベル等で登録内容を確認願います～

表　赤かび病防除を中心とした防除体系例　(水量100Ｌ/10a散布)

時　期	薬　剤　名	使用倍率	使用回数	使用時期
開花始 **【必須】**	バラライカ水和剤	500倍	２回	収穫14日前まで
７日後 **【必須】**	ミラビスフロアブル または ベフトップジンフロアブル	1,500倍 800～1,000倍	２回 １回	収穫7日前まで 収穫14日前まで
臨機防除	シルバキュアフロアブル または リベロ水和剤	2,000倍 2,000倍	２回 ３回	収穫７日前まで 収穫７日前まで

※開花始防除はシルバキュアフロアブルまたはリベロ水和剤でも可。

※赤かび病防除でベフラン液剤25、チルト乳剤25を使用する場合には1,000倍使用が望ましい。

※イミノクタジンの成分を含む農薬(ベフトップジンフロアブル、ベフラン液剤25)は、出穂期以降の使用回数が１回以内なので注意。

※詳しくは「令和４年度農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド（るもい農業協同組合・ホクレン留萌支所」を参照ください。

3　赤さび病～近年、全道的に**「きたほなみ」**での発生が目立ってきています。

・気温が高く、雨の少ない条件で多発し、特に小麦の生育後半に急激に発生拡大します。

・下葉を確認し、病斑が目立つ場合には、防除を行って下さい。

4　アブラムシ類防除

発生は出穂10～20日後から急増します。寄生穂率が45%を超えると減収するので、寄生穂率が30%になったら防除準備をしましょう。

表　アブラムシ防除薬剤例　(使用時には登録内容を確認願います)

薬　剤　名	使用倍率	使用回数	使用時期
スミチオン乳剤	1,000倍	１回	収穫７日前まで
エルサン乳剤	1,000倍	４回	収穫７日前まで

【春まき小麦】

1　除草剤散布

雑草の発生状況をよく確認し、雑草が小さいうちに除草剤処理を行い、発生量を低減させましょう。

2　倒伏防止

植物成長調整剤(サイコセルPRO、カルタイムフロアブル等)の使用にあたっては、使用時期・使用量・使用上の注意点を十分確認して、薬剤散布を実施しましょう。

3　生育状況に応じて赤かび病防除

赤かび病防除は秋まき小麦と同様に開花始から実施しますが、生育は進んでいますので、防除のタイミングを逸しないよう、今後の生育状況を十分確認して下さい。防除時期は「開花始」と「その７日後」、「開花始から14日後」の３回となります。

防除薬剤については、秋まき小麦と同様となります。

【大豆】

1　雑草対策

(1) 除草剤散布

散布遅れがないよう、は種後、速やかに散布して下さい。

(2) 耕種的防除

生育の促進を兼ね、中耕・除草を実施します。初期の中耕では、作物に土がかからないよう、中耕幅を狭く設定しましょう。

～農薬の安全使用基準の遵守とともに、農作業事故に注意しましょう！～

平成31年１月より**”収入保険制度”**が始まっています！

詳しくは、お近くの農業共済組合へお問い合わせください。